

走りつづける「今福線」

大畠 富紀

1. はじめに

今福線研究分科会は、今年で8年目を迎える終わりなき分科会になりつつある。これまで、現地踏査から始まり今福線のマップ作成、地域との交流、シンポジウムの共済および今福線を活かす連絡協議会への参加と活動範囲が広がってきた。ネット上では、技術士会や浜田市のHP、フェイスブック、その他にも鉄道に興味のある方がHPにさまざまな写真が公表されている。

今年を振り返ると、県内では6月17日から周遊型臨時寝台列車「瑞風」の運行が始まった。また、島根県西部にある江津～三次間を運行するJR三江線は、2018年3月末をもって全線が廃止される。さらに、最近では新幹線初の重大インシデントがニュースになっており、鉄道に関する話題が多かったように思える。

ここでは、今年度の活動成果や新たに発見された内容について報告する。

2. 今年度の活動内容

- ・8月20日(日) 初回打合せ(技術士会)
- ・11月4日(土)、5(日) 現地調査(連絡協議会、浜田市関係部署、技術士会)
〔ドローンにて撮影、おろち泣き橋調査〕
- ・12月9日(土)、10(日) 現地調査、ヒアリング
(岡山大学樋口先生、石本会長、連絡協議会、技術士会)

3. 遺構周辺の整備

平成27年のシンポジウムをきっかけに、遺構周辺は伐採や里道の整備が行われ、見学記念として記帳できる場所も設置された。昨年は諸事情により参加できなかったが、1年の間に遺構周辺の状況が著しく変化していることに驚かされた。

(1) 橋脚群の眺望

これぞ今福線の絶景箇所である。平成27年に伐採され、眺望がよくなつたが、さらに遠方も伐採され、すべて見通せるようになった。橋台、丸い橋脚、四角い橋脚などすべて形状が異なる構造物が連なつてきれいな曲線を描いているのがよくわかる。



写真1：平成22年と平成26年の状況



写真2：さらに伐採された橋脚群

(2) 第一下府川橋梁

第一下府川橋梁は、新線と旧線の分岐箇所であり、2本の橋を見ることができる珍しい箇所である。残念ながら立ち入り禁止となっているが、推進委員会のアイディアにより、見学記念としての記帳ができる、写真をもらって帰ることができるようになっている。記帳者の人数から推測しても、かなりの方が見学に訪れたことが確認できる。



写真3：案内文と記帳箱



写真4：見学記念カード

(3) 旧線の伐採

我々が11月4日に訪れたときには、アーチ橋より先は雑木が生い茂っており進まず、ドローン撮影も断念した状況であった。ところが、約1ヶ月後の12月9日は旧線の路盤はきれいに伐採しており、歩いて調査することが可能な状況となっていた。



写真5：旧線の4連アーチ橋



写真6：12月の伐採状況

(4) 休憩所

新線と旧線の分岐箇所手前には、推進委員会で建てられた休憩所とバイオトイレがある案内所がある。何気なく中を見てみると先般11月にドローンで撮影した上空からの写真が展示してあるではないか。これには、旧線の伐採とともに地元推進委員会の方々が行動されるのが早く、敬服するばかりである。



写真7：休憩所



写真8：上空写真

4. 周辺の改変と新たな発見

(1) 起点側(橋台跡)

旧線の起点側には、下府駅のすぐ近くに橋台とその取付擁壁が残っていた。しかし、道路線形が悪かったため、見通しを良くするため市道改良により撤去された。大きな構造物はなくなったが、ブロック積擁壁の取付工に僅かに残っているのが確認できる。



写真9：改良前の急カーブ



写真10：道路改良後

(2) 有福第三トンネル付近の橋脚群

有福第三トンネルや橋脚群を撮影していると、道路肩に踏台としてちょうど良い構造物がある。よく見ると鉄筋が切断された跡が。どうもここに橋台があったようだ。



写真11：橋脚と県道



写真12：橋台の遺構

(3) 下長屋トンネル

今福線の図面は、旭町の丸原地区については確認がされている。今回12月10日のヒアリングで、浜田側の図面もすべてあることが確認された。図1は広浜鉄道今福線ガイドブックに掲載されていた図面であるが、県道浜田八重可部線や金城町役場今福支所が明記され、今福線の起点であることが説明されていた。

また、今回の調査やヒアリングで衝撃的な事実が判明した。なんと下長屋トンネルL=1633mは、当初は2本のトンネルに分かれていたという。経緯は不明であるが、今福側と佐野側でトンネル断面が異なっていたことにも関係があるのであれば、また、新たな疑問・調査項目が見つかった。



図1：今福線図面

5. 今後の課題と考察

【新線と旧線】

今福線の特徴は、やはり新線と旧線の双方の遺構がそのまま残っていることであろう。ここは、第二下府川橋梁、鉄樂の道、第一下府川橋梁、下長屋トンネル、今福橋梁までが一直線で並んでおり、天候が良ければずっと見通すことができる箇所である。

どうしても、第一下府橋梁手前の防護柵をなくし、第二下府川橋梁と同様に橋梁上部工で防護柵の安全対策を講じるなど、解放できるように働きかけていきたい。



写真13：新線と旧線



写真14：第二下府川橋梁

【下長屋トンネル】

今福線の図面から下長屋トンネルが当初2本あったことを知り、早速状況を把握することとした。図2はペーロケにより作成した縦断図である。中間付近に土被りが薄い箇所があるのがわかる。また、浅利寺住職の泉さんのお話では、工事は起終点側と縦坑の左右4箇所から開始されたとのことである。また、この周辺に宿泊のための飯場があったらしい。

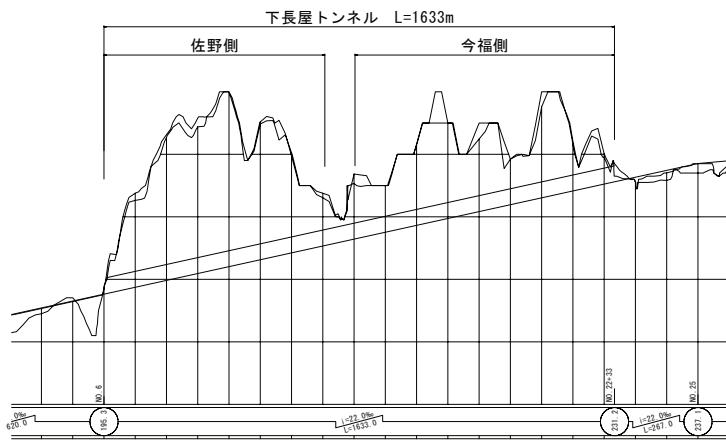


図2：下長屋トンネル縦断図

【今後の調査と取り組み】

今福線の図面は浜田市にてスキャナー予定であり、デジタル化については、樋口先生が土木学会に問合せをされている。図面が入手でき次第、2本のトンネルの経緯や痕跡等調査したいと考えている。

また、今福線を含めた未成線サミットも数年後には開催予定であるため、地域の方々、浜田市と一体となって、遺構を保存する活動を継続していく必要があると感じた。

これからも今福線の遺構を後世に残すため、個人としては微力ではあるが分科会を通じて積極的に活動していきたい。

-以上-